



あきつ

2021年1月15日発行

第 628 号

発行 / 社会福祉法人 天童会 飯野順子

新型コロナウイルス感染症について

園長 大石 勉

2019年12月、中国武漢市に出現した新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界的大流行(パンデミック)となり、2021年1月16日現在、累計死亡者数は200万人を超え、累計感染者数は1億人に達する勢いです。

わが国では既に第3波の大流行となり(2021年1月中旬までの累計感染者数ほぼ320,000人、死亡者数4,500人)、1月7日、再度の緊急事態宣言が発出されました。

昨年12月9日より12月16日にかけて当園の職員1名、入所者4名が次々と新型コロナウイルス感染症に罹患しました。発熱で発症、迅速抗原検査で診断し、直ちに当該病棟の閉鎖と厳格な病棟内感染対策を実施しました。

その後新たな感染者のないことから、2021年1月1日、当園における新型コロナウイルス感染症発生は収束しました。

このような中、新型コロナウイルス感染症に罹患した入所者のお1人が転院先の病院で肺炎によりご逝去されました。誠に申し訳なく、残念でなりません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

他の入所者3名と職員はPCR検査も陰性化し、回復しています。尚、当該病棟のその他の入所者、職員はPCR検査で全員陰性でした。

さて、冬期に流行を繰り返すインフルエンザによる世界の死亡者数は毎年20万〜50万人と言われています。新型コロナウイルスは間質性肺炎を高率に引き起こすので、インフルエンザと比べて著しく強い病原性を示すと考えられています。

また、感染者の20%は経過中全く症状のない感染者から、40%は症状が出る前の潜伏期間中の感染者から、残りの40%だけが発熱や咳・鼻汁のある感染者から感染することも解ってきました。つまり、60%の感染者は症状のない人にうつされていくことになる

可能性があります。

このような予防が困難な特徴を持つ新型コロナウイルスに感染しないためには、以下のことが最も基本的な対策と考えられています。

- ①3密(密閉、密集、密接)の回避はもちろんのこと、②ソーシャルディスタンス(互いに2m以上離れる)やユニバーサルマスク(1人の時以外は常にマスクをする)で飛沫感染を予防し、③アルコール消毒や手洗いで手指衛生に努めて接触感染を予防することです。

しかし、長期化する様々なストレスから逃れるためか、「自分だけはコロナにからまない」と考えたり、「外出や会食による感染のリスクに無関心」になるなどの精神・行動の変容も見られ、十分な注意を払って感染防止に努める必要があります。適切なストレス解消法を持つことも大切です。

しかし新型コロナウイルスに対するワクチンが承認されたことは明るい希望となりました。重大な有害事象のない、長期的な予防効果の保障されたワクチンの一刻も早い、安定した供給と接種が強く望まれます。

昨年においただきました
ご厚誼・ご厚情に深く
感謝申し上げます。
本年もよろしくお願
い申し上げます。

新年に当たって

カレンダーに
予定のある生活を



理事長 飯野順子

お正月を迎えるために、大掃除をして、お節料理をつくって、お飾りを用意してなど、せわしなく立ち働いてきたことを思い出します。今でも楽しんでいただくことを思い出します。1年間お世話になったのびのびに活動

なカレンダーをと、楽しみつつ掛けてゆきます。昨年は個人のカレンダーの予定を中止又は延期によるキャンセルで、95%程度消しました。

そこで、気づいたのは、カレンダーに予定が書いてあることの意味と重要性です。予定とは、それに向かつて歩み始め、自分で時間を管理し、時の節目をつくるツールです。おあげに言えば、カレンダーは、私の生きた証明のようなものと思うようになりました。年数を経ればそれは、人生の履歴(書)となります。

秋津療育園に入所している方の平均年齢は、50歳(最年少10歳〜最年長75歳)です。最長在園年数は64年と聞きますと、時代をくぐり抜けてきた方々の生きた証し・人生の履歴について考えさせられ、生涯学習の視点で、分析したい課題です。

カレンダーに活動などの予定があると、活動をイメージし、期待感や希望を持って、体調を整え、その日に向かう姿勢を培います。その一連の精神活動は、生命を強め、生命の輝きをもたらします。例えば、カレンダーに「しるし」をつけ、それを示しながら、「水曜日には、〇〇があるよ」と伝えるコミュニケーションは、ありふれた日常の一端のように見えて、意義ある言葉かけです。

これは日常生活に節目をつくって日めくりのような「こみみ」になります。

新年に当たって、秋津療育園の新しいカレンダーには、「srpセンター・アーク」の開設と書き込んでいます。本事業は、①「児童発達支援センター・まゆみ」、②「EMMET保育園(現こひび園)」、③「アーク」にも相談センター、④「アーク」でもワリニツクの4機能の構成です。

本事業の詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

本事業の開始によって、地域社会への貢献を広く・深く果たせるよう尽力いたします。また、園生の生活の充実を支えて下さる職員の方々の「幸」を祈念いたします。
※S.Jd→Sustainable Life Project



特集
はたらくひと
働く人
その6
相談支援センター
 そうだんしえんせんたーで働く職員さん

今回は「相談支援センター」におじゃましました。相談支援ってなんだろう？、伺ってみよう。

職員数や勤務体系は？、なんなのか？、常勤の相談支援専門員6名（成人担当3名、児童担当3名）が日勤で勤務しています。



取材日の入室者は3名、訪問業務も多くの時間をしるめ、全員が顔をそろえるのは、朝のミーティング時が多い日が多い

「相談支援？聞きなれない言葉だけど、このような仕事なんだって。」

地域の障害を持つ方の「サービス」利用計画の作成が、主な業務になります。地域には様々な福祉サービスがあります。大きく分けると

- ①作業所（就労系、日中活動系、訓練系）・グループホーム・短期入所・施設入所・居宅介護（訪問介護、同行支援、通院介助など）→障害者総合支援法のサービス
- ②児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援など「児童福祉法のサービス」があります。

このようなサービスを利用したい時、どこにどういったサービスがあるのか、自分に合う事業所はどこなのか、

など解らない事が多いと思います。そこで私たち、相談支援員が行政と利用者との間に立つ、コーディネーターとして介入します。

利用者にとっての必要なサービスがどのくらいあるか（頻度）で必要なか、そのサービスを利用する事で生活がどの様に改善するのか、などを盛り込んだ「サービス等利用計画」を作成し、役所に提出します。役所ではその計画をもとにサービスの支給決定を行い、「障害福祉サービス受給者証」を発行します。福祉サービスも利用料は発生しますが、受給者証があれば公費から負担してもらえます。

なるほど、「障害福祉サービス受給者証」発行までの手助けをする業務なんだね。その後はどうなるのかしら？

「サービス等利用計画」を作成して業務完了という訳ではありません。その後もご自宅を訪問したり作業所などを訪問して、計画と実態がマッチしているかなど経過を見て行きます。事業所のスタッフへの聞き取りや本人の感想などもとりに「モニタリング報告書」を作成し、課題の洗い出しや目標に対する評価を定期的に行っています。

経過を見ていくことが大切だね。工夫していきましょう、苦労する点はなんですか？

支援に関わっている支援者が集まってサービス担当者会議を開く機会があります。障害をお持ちの方が地域で安定した生活を続けていくためには、たくさんの方の支援者が関わっています。

障害福祉サービスには含まれませんが、在宅医療のドクターや訪問看護のナース、病院の医療ソーシャルワーカー

や就労支援の相談員、学校の先生など、利用者を取り巻くこれらの関係者もすべて「支援者」と言えます。私たちはその相関図をきちんと頭にに入れておく必要があります。

それぞれの支援者は、利用者が充実し、安定した生活を送れるように最善を尽くします。

支援者全員が課題と目標を共有し合う事はとても重要です。私たち相談支援員は、利用者への直接の支援は行いませんが、利用者や支援者の間に立ち、話し合いの場や機会を提供していきます。支援者の方々はそれぞれの職場で本業の仕事がありますので、全員のスケジュールの調整をするのが本当に大変です。

また、サービス担当者会議では支援者それぞれの視点から遠慮なく意見を述べてもらうように配慮します。意見がぶつかったり、收拾がつかなくなる事もあります。そんな時は密かに頭を抱えなくなるものです。（泣）

これは言っても、そこにいる人たちは全員、「利用者の為」という思いが共通している訳ですから、とても心強くなりますね。

たくさんの方が関わっているのね。



毎日誰かが何処かへ。寒い日は手袋をして、雨の日はカッパを着て 自転車が相棒です

相談員の皆さんと利用者との関係ってどんな感じなのかな？

利用者とは頻繁にお会いする訳ではありません。少ない人だと年2回（計画の更新時とモニタリング実施時）という方もいらっしゃいます。その中で利用者の抱えるニーズを的確に把握していくのはとても難しいのですが、相談支援をする上での一番の要所だと考えています。始めから全てを話してくださる方はいらっしゃいません。お付き合いが長くなるにつれて、ニーズや課題が浮き上がってきます。また利用者さん本人でも自覚していなかったニーズや、将来直面するであろうニーズがある事も多いです。

そういった利用者さんご家族も含めた課題を丁寧に拾い上げ、課題解決の道筋を示していけたらと考えています。

短い時間でその人の必要なものを見つけてるのは難しいのね。

これからの課題は何だろうか？

相談支援センターは平成26年に開設され、今年で7年目になります。まだまだ経験は浅く、勉強不足な点も多々あります。各種の研修に参加したり、実際の現場で場数を踏んで、さらにステップアップしていければと考えております。

また、令和3年2月からは、児童担当の3名が新しく出来る児童発達支援センターで業務を行う事になりました。計画相談だけでなく一般相談も行つ事で、より専門的できめ細かい相談支援を行えるようになっています。地域の皆さんに信頼してもらえれば相談支援事業所になるため、今後より一層努力してまいりますので、よろしくお願い致します。

相談センターへのご連絡は、
 soudan@tendoukai.net まで

MERRY CHRISTMAS クリスマス

(4 棟談) サンタがプレゼントを渡しに来ると、園生の表情も笑顔でした。ケーキはほっぺが落ちるほどおいしかったです。大満足！今年のクリスマスはいつもと少し違うクリスマス会になりましたが、色々工夫しながら行う事で個々に楽しみ、笑顔が多いクリスマス会になりました。



HALLOWEEN ハロウィン



文化祭・音楽会 お楽しみ会

さんぽ 日向ぼっこ

(3 棟談) なかなか遠くにお出かけは出来ませんが、外の空気を吸って気分もリフレッシュ！



食バイキング

(3 棟談) お刺身は大人気で、おかわりしました。お腹いっぱい、元気いっぱい



100日後に就職するうさぎ 第2話

活発なおひつじ座は福祉が向いています



ロマンティックな乙女座も真面目な牡羊座も福祉が向いています



おとし座も双子座まかに座もしし座もてんびん座 さてし座いて、みずがゆ・こお全部向いています



その本当たるの？読む？



庭木の剪定しました

伸び放題になっていた、庭木の剪定を(施工:大谷造園)行いました。きれいさっぱりで風通しも良くなりました。



第33回 辻村賞

理事長 飯野順子

国立特別支援教育総合研究所では、特別支援教育の領域において特に顕著な功績のあった個人・団体や、特に優秀な研究を行い特別支援教育の向上に著しく寄与した個人・団体に「辻村賞」を授与しております

第69回 東京都社会福祉大会 知事感謝状

児童指導員 中村典雄

東京都より、福祉活動の普及・推進を行い、誰もが安心して暮らせる社会の実現を図るため、東京の社会福祉の発展に功績のあった社会福祉関係者を表彰しています(東京都HPより)

法人事務局発インスタグラム開始

現場の様子など、最新情報をお伝えします是非フォローをお願いいたします



https://www.instagram.com/tendo_kai/

授与のご報告です

中庭バラの道 ライトアップ



中庭のばらの散歩道に沿って優しい灯りがともりました。夕方暗くなってから中庭を眺めると幻想的です。「利用者のための散歩道を作ろう」と進めてきた計画の最後に完成したのが、ライトアップです。

後援会様、篠原バラ園様をはじめ、皆様からのご寄付を使わせていただきました。ありがとうございました。いつか、コロナ感染が終息したら、バラの香る庭に皆様をお招きして楽しいひと時を過ごしていただきたいと思います。(サービ課)

古い写真や文庫の中から、もう一度見ておきたい、読んでおきたいものを掲載します。

秋津アーカイブス

当園に入所しているTさんの甥である高地恭介さんが、第三回「藤村文学賞」の中学生の部で、最優秀賞を受賞された時の物です。全文を3回に分けて掲載いたします。今回は、その第2回です。

「おばさんの日記」第2回(全3回) 高地 恭介

Tおばさんが秋津療育園で生活している時の唯一の連絡方法は手紙です。Tおばさんからは、家族七人全員の誕生日に必ずワープロでうった手紙が届きます。僕は手紙を読み終るとすぐに返事を書きます。僕は学校生活の事や家の中の事などを書いています。

Tおばさんは、足の指を使っています。事がワープロの他にもう一つあります。それは、電動車イスです。細い棒に大きい球のような物がついていて、その棒が三百六十度うごきます。それが車という、ハンドルとアクセルをいっしょにしたような物です。その電動車イスは東京に一つ小諸の僕の家の一つあります。僕も家の庭で乗り、今ではずいぶんうまくなりました。こちへ進みたいのに列の方向へ進んでしまい、思い通りに動いてくれませんでした。

Tおばさんは、電動車イスをうまく運転しています。夏休みに帰って来て、晴れた日には、Tおばさんと、おじいさん、僕の三人で散歩に出かけます。東京では、人や車の通りが激しく散歩に出かけるのは危険です。でも僕の家は、田んぼや畑ばかりで車はめったに通じません。Tおばさんは電動車イス、僕とおじいさんは歩きます。Tおばさんは先に進んで行ってしまうので、長年同じ道を散歩しているの、一休みする所が決まっています。そこで止まっています。一つ目は橋の上、ここで川の流れを見ながら一休みします。二つ目は、辺り一面が見える、小高い場所でおじいさんは、たばこを吸っています。その周りは田んぼで、イネの穂が出はじめています。三つ目の一休み場所は、小海線の線路の横にあります。東京と違って列車は一時間に一本程度しか通りません。散歩に行くと列車を見ればラッキーという感じです。

(平成9年6月1日発行 「あきつ374号」より)

寄付

山本鐵子様、村田清治様、長谷川初子様、丸山キヨ様、小松満輝様、岡田生樹様、高田徳子様、牧田勢津子様、寺本国男様、和田真様、飛田貴子様、北林明美様、東京第三友の会様、SDA新座キリスト教会様、(有)荒田葬儀社様、(有)魚三九様、東洋英和女学院母の会様、目白教会婦人会様、立教池袋中学校高等学校PTA様、東村山市社会福祉協議会様、東村山市秋津ちりりん村様、ケイゴルフサービス神津信一様 皆様方の温かい御支援と御協力に、心より厚く御礼申し上げます。 社会福祉法人 天童会

編集後記

編集にあたり、コロナウィルス感染症でお亡くなりになった皆様のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。新しい年を迎え今号を発行するにあたり、明るいニュースをお伝えすることばかり考えておりましたが、大石園長の原稿を頂き、無理に作られた記事は必要ないことがわかりました。当園の現状を明らかに記事とすることが、私たちの役目であり、必要なことなのです。と、今更ながら実感しました。これからも感情に左右されることなく、現状をお伝えしていきたいとおもいます。その中に明るい記事がたくさん見つけれられますように。(池田 雄)

あきつ 第628号

E-mail: jimukyoku@tendoukai.net HP: http://www.tendoukai.jp 発行人/飯野 順子 発行/年4回1・4・7・10月発行

